



「たった一言」ですが… その重みを考えていますか？

本校では、さまざまな道徳的価値に対して、「自分のこととして考える」「これからの自分の生き方について考える」ことを大切にして、道徳教育の充実に取り組んでいます。そのために、6月には道徳教育についての先生方の勉強会である校内研修も行いました。道徳通信等で、各学級から授業の取組とその時の子供達の気づきや思いが保護者の方へ紹介されているかと思えます。

連日、新聞で中学生の悲しい事件が報道されています。日常生活の中では、こちらが相手に優しく話しかければ相手も優しく応えてくれるし、こちらが悪口を言えば相手からも悪口が帰って来ます。言葉は、使い方によって、宝石よりも貴重なものにもなるが、時には凶器にもなりうることもあります。子供たちには、お互いがお互いの思いをしっかりと感じとって、「折り合い」をつけられる力と、「言葉の重み」をしっかりと考え、行動できる力をつけさせていきたいと考えています。

金子みすゞの「こだまでしょうか」より

「遊ぼう」というと「遊ぼう」という。

「馬鹿」というと「馬鹿」という。

「もう遊ばない」というと「もう遊ばない」という。

そして、あとで さみしくなって、

「ごめんね」というと「ごめんね」という。

こだまでしょうか、いいえ、誰でも

よいことも悪いことも、投げ掛けられた言葉や思いに反応するのは「こだま」だけではなく、すべての人の心がそうだと金子みすゞは言っています。

人は、たった一言で傷つき、たった一言で笑顔にもなれます。同じ一言でも、相手が笑顔になれる一言を大切にしたい学校にしていきたいと思えます。

学校長 高田 勝弘



特別の教科道徳について「Q&A」でお答えします。

ニュースなどで十分ご存じかと思えますが、学習指導要領の改訂に伴い今年度から中学校では、道徳が教科化されました。教科化のねらいは、道徳教育をいっそう充実させ、また、体験活動を重視し、道徳性を養い、豊かな心や健やかな体を育成することです。多くの疑問に「Q&A」でお答えします。

Q①：授業の頻度はどれくらいですか？ ⇒ A:年間35時間です。週1時間です。

Q②：教科書はありますか。 ⇒ A:教科になり「授業」は教科書を使用しています。

Q③：道徳の授業は、どのように変わりますか？ ⇒ A: 考え、議論する道徳をめざします。

保護者やゲストティーチャーの参加により多様な見方、考え方が広がる
良さもあります。参加をお願いすることもありますので、その際
には、ご協力をお願いします。

Q④：どのような評価方法になりますか？

⇒A:「数値」ではなく、「生徒の学習状況や成長の様子」を毎学期
通知表に「文章記述」します。(早速今学期から始まります)

穴水中学校では、各学年の道徳通信やテーマに対しての経験や感想意見を掲載する「道徳コーナー」を1Fに設けています。是非、来校の際にはご覧いただければと思います。7月の第1回学校公開に続き、第2回学校公開日は、11月5日5限（予定）で「道徳科の授業」を公開します。是非参観よろしくをお願いします。





お詫びと訂正のお知らせ

穴中だより7月3日号の「穴中栄光の軌跡」【吹奏楽】に間違いがありました。参加部員名、担当を下記のように訂正してお詫びします。



【吹奏楽】県吹奏楽コンクールについて 7月14日 根上総合文化会館タント

◆中学校B編成 午前の部 出演順 1番 (9:20~)

(県大会の日程)

◆3年:

◆2年:

◆1年:

個人名の掲載は控えさせていただきました



7/3日 3年生「和菓子づくり」体験を終えて

3年生は、この和菓子作り体験によって、キャリア意識が著しく高まりました。

- 長年修業してやっとできることなんだと実感しました。丸めるだけでも素早くすることができず、さじや木で形を作って行くところはさらに難しかったです。何年も積み重ねが大切だと分かりました。職人さんの技を見て、細かい手の動き、手さばきに自分の目で「積み重ね」を感じられて良かったです。一つのことに向かって努力する大切さが分かりました。私もこれから進路を決めていくので、一つのことへ一生懸命になって努力できる職業を見つけたいです。
- 話を聞き、見ることで、職人になるための長い間修業をし、大変苦労しているんだと思いました。石川の文化としてこれから和菓子などを大切にしたいと思いました。
- 「和菓子作り」と聞いた時は、不安や楽しみなど色々な気持ちがありました。世の中には、たくさんのお仕事があり今日はその一つを体験することが出来て良かったです。
- 次に作って見たら今よりもできるのではないかと思います。職人の技はとてもすごかったです。とても素早くきれいにできていました。日本の文化はすごいものだと思えました。
- バラはあまり良く出来なかったけど、アジサイはけっこううまくできました。職人さんのお手本や技を見て、すごく手つきが速くてきれいに作れるし、細かな作業をしていて驚きました。お菓子作りに興味を持つこともでき、日本文化の大切さなども学ぶことができました。
- 職人さんの技を見て、ああこれが技能一級なんだとすごいなあと思いました。何でもそうだけれど、やっぱりプロになるのは大変だなと思いました。
- 職人さんの技はもちろんすごかったし、周りの友達にも上手な人がいて、すごいなあと思いました。極めることの楽しさがわかりました。
- 色々な人の笑顔を見ることができ喜びを感じました。人は楽しいから始まって、その職業に就く人が多いと思いました。色々と学んだので、それを生かして今後の生活を過ごします。

